

保存問題長野大会開催に向けて —— 会員以外の方の参加も歓迎致します

吉川 一久

日本建築家協会では、2014年2月15日(土)、16日(日)の2日間に渡り岡谷市や諏訪市を会場に保存問題長野大会を開催することになりました。

この大会は関東甲信越の各県を持ち回りで開催している建物や景観の保存利活用を考える大きな大会です。

今回の保存問題長野大会のテーマは「保存は未来への創造である」(近代産業衰退の影響と保存建築物の活用)です。

岡谷市や諏訪市に残る生糸に関わる近代化遺産の見学、基調講演、パネルディスカッションを計画しています。シルク岡谷と言われ世界に名を轟かせた生糸産業の現在に残る遺産の保存利活用を考えます。有意義な大会になると思います、興味のある方はぜひご参加下さい。詳しい案内や申し込み開始は12月の中旬を予定しています。

最近新聞紙上で建物や構造物などの保存

私たち日本建築家協会でも多くの建築に対して利活用の道を探ったり保存要望書を提出してまいりました。(県内では長野市民会館、山崎歯科医院、新村駅舎)

建物の解体が決まってから慌てて保存運動をしたのではなかなか残せません。



理論合宿参加メンバー集合写真



丸山タンク



片倉館



片倉組事務所



旧山一林組製糸事務所

に関する記事が目につくようになってきました。少し前までは古くなった建物を解体し新しい建物を建てるのが最善であるかのように壊され建替えられてきました。近年になって歴史のある建物や魅力のある建物を保存しようという市民による運動が多くなっています。これは過去の反省のもと大切な地域の財産を未来へ継承したいという気持ちの現れではないでしょうか。

個人や企業の持ち物であっても景観としての建物は皆の物であり幼い頃からの心象風景であり愛着のある宝物です。そうした宝物が残っていることが地域の誇りであり住み続けたいすてきな街の基本ではないでしょうか。



金上藪倉庫



旧岡谷市役所

現在長野県クラブでは、長野県全県を対象に残したい建物の悉皆調査を行っています。

これは2002年の保存問題長野大会の時、調査報告した建物の追跡調査も含め建築家の目で見た保存したい建物の調査です。今回の長野大会で調査結果を報告する予定です。

会員だけでなく一般の方にも参加して頂き郷土の宝物について考える機会になることを願っています。



旧林家住宅

8月24日、25日に行われた関東甲信越支部保存問題委員会の理論合宿の際に長野県クラブ保存問題長野大会特別委員会と共同で長野大会の見学箇所の下見と大会に向けての会議を行いました。今後の活動にあたりある会議になりました。写真はその時確認した候補地です。

6月7日「いろりの里 大平宿(おおだいらじゅく)」の民家での生活体験からこのウォッチングが始まった。電気・ガスではなく、いろりに火をおこし、いろりの明かりを囲んで皆で酒を交わしながら、夜遅くまで語り合い、現代生活で忘れられてしまった生活の原体験をすることができた。

大平宿は、長野県飯田市内に存在した宿場町である。飯田市内より大平街道を車で40分。大平街道のほぼ中間地点、標高1150mの大平高原と呼ばれる山中のわずかな平地に建物がある。訪れたとき、なぜこんな山中に村が存在していたのかという思いにかられた。歴史を紐解くと、この大平街道は江戸時代中期、伊那谷と中山道の妻籠宿を結ぶため、飯田藩によって建設された街道であり、それまでは権兵衛街道を経て妻籠宿へ行くことができたが、この街道の開通により、最短距離で妻籠宿へ行くことが可能となった。いかに江戸時代の動脈であった中山道に豊かな伊那谷の米などの穀物流通が重要視されていたのかということを考えさせられる。大平宿は大平街道が開通したことにより、木地師の大蔵五平治と穀商人の山田屋新七が、信濃飯田藩から許可を得て開墾したことに始まる。その後、飯田藩により大平街道の通行を命じられた者や元善光寺参りの参拝者が滞在するようになり、文化年間(1810年代)には茶屋宿として栄えた。

明治になると、小学校や郵便局も設置され、長野県南部と周辺都市との交通や物流の要所となった。明治42年、木曾に中央本線が全線開通すると最盛期を迎え、戸数70を超える賑わいを見た。しかし、大正12年に伊那電鉄(現飯田線)が飯田まで開通すると、それまで大平宿を通して中央線を利用していた人々が減少し、さらに昭和30年代に国道256号が開通すると大平街道の交通や物流は減少の一途を辿った。また、高度経済成長によるエネルギー需要の変化により村の中心産業であった林業(炭焼き)が成り立たなくなり、昭和35年の戸数は全盛期の半数以下の38戸にまで減少した。そして昭和45年、住民の総意として集団移住を決定し、同年11月末、大平宿は約250年の歴史に幕を下ろした。

昭和48年別荘地として観光地開発計画が浮上したことで、自然保護とたとえ1件でも残そうという思いから大平宿保存活動団体「満寿屋(ますや)会(現・大平宿をのこす会)」を結成

した。これが大平宿保存運動の始まりである。今は「いろりの里・大平宿」として、いろりのある民家に住んで生活の原体験をすること、大平の自然を一体のものとして認識することを導く場としての活用がされている。これは他の一般観光や民俗遺産展示型保存あるいは生活基盤としての保存とは趣を異にするところで、大平宿の歴史的遺産の保存は体験的保存であり、歴史から何を学ぶか、人間としてどんな価値観を学ぶかといった教育的な意義が深い。「保存」をどのように捉えるのか。第3者が歴史的価値を評価し、国民的な文化財として保存すべきとする「押しかけ保存」。実際には地権者・所有者がいるが、他人が押しかけてやる保存運動は自分の生活がかけられていないという無責任さもあるけれども、利害を離れていることでの、一般に訴えかけのし易い純粋性もある。また、他人の目が見定められることで当人が改めて気付くということもある。保存には修復の方法や経済的な根拠も必要であるし、地権者・保存運動団体・行政などのさまざまな主体がありそれぞれの問題を抱えている。最終的には意思疎通をはかり、共通の価値観を見出して、合意を得て初めて価値ある「保存」となる。「保存」の難しさ・意義を改めて考えさせる一夜であった。



囲炉裏を囲んで保存問題を考える



大平宿・民家内部



大平宿を歩く



大平宿の家並み

アーキテクト・ガーデン2013 香山 壽夫氏と語る会(軽井沢)

小川原 吉宏

2012年3月に開催した第6回「建築祭」(JIA長野県クラブ主催)にて、「第20回文化講演会」講演、第21回「長野県学生卒業設計コンクール」特別審査委員として香山壽夫先生をお招きしました。その懇親会の席で軽井沢に別荘があるとのことをお聞きし、バーベキューでもしながら見学会をお願いできませんかと飲んだ席の無礼講で伺ったところ快諾を頂き、山口副会長のお付き合ひも重なって、願ってもないプログラムが実現することになりました。JIA会員以外の建築仲間も集って下草刈り、バーベキュー、自宅別荘(千ヶ滝の山荘)見学、周辺の設計した作品見学と盛りだくさんの内容になりました。千ヶ滝の山荘は両側に増築棟があり築年数は異なりますが、一貫した素材とディテールで緑に溶け込む佇まい、窓・開口部は眺望を奇麗に切り取るFIXと通風を備えた突き板戸、内部に柔らかい光を取り入れる障子戸、組み合わせはシンプルで単純な構成に見えますが、各部ディテールは練りに練った工夫があります。特に増築棟小屋裏瞑想室と呼ばれていた場所は、高さ・広さ・開口の陰影と質感から

不思議な雰囲気を感じ出す素晴らしい空間でした。大雨の中でしたが周辺に設計した別荘も案内して頂き、行く先々で質問攻めにあいなながらも丁寧にお話しして下さる素晴らしいお人柄に接し、本当に楽しい会となりました。またこの日は同じ軽井沢に別荘がある野生司義光氏もご参加下さり、終了後自宅別荘「浅間山の家」も見学させて頂く機会に恵まれました。数々の雑誌・住宅誌に掲載された近代の別荘、ジャグジー(建物内部の露天風呂)を中心に各用途が配置され、大開口により内外領域を軽井沢の自然と一体化する大変気持ち良い空間でした。休日、軽井沢で余暇を楽しむ一時を、語る会としていただいた、香山先生・奥様、野生司先生、改めて御礼申し上げます。有難うございました。



香山先生(右端)との懇談

地域材フィールドワークin北信

長野県北信地域の森林と製材を見学し、地域木材利用の意義を考える。

「川上から川下」へ信州の山の現状を学ぶ、第4回となる地域材フィールドワークを6月28日に北信地域で開催しました。森林と林業の学びとして、北信州森林組合による間伐現場見学と講話、製材所の学びとして、瑞穂木材株式会社による工場見学と講話、長野県の森林行政の学びとして、長野県林務部信州の木振興課による講話をしていただきました。そして、最後に意見交換をしました。

池森 梢

フィールドワーク内容

中野市田上の森林視察と北信州森林組合・田中氏による講話

中野市田上(144ha 129名の所有者)の森林は、公益信託 農林中金80周年森林再生基金「FOREST80」助成対象事業として、放棄された森林をもう一度、地域管理下に取り戻すため、境界の明確化、資源量の調査を実施し、そこで得られたデータをGISでデジタル管理し、森林整備事業に結びつけることで、地域森林の持続的利用モデルの構築を目指しています。この森林は境界立会いが終了しているとのこと、境界杭の設置状況や、デジタル化についての話をお聞きました。

また、施行については、列状間伐(3残1伐)の状況と高性能林業機械のプロセッサ(枝払いと玉切)を見学しました。

- ・ 定性間伐
木々の形質に重点を置いてあらかじめ伐る木を決めて行う間伐。優良木を残す間伐。
- ・ 定量間伐・列状間伐
斜面の上下に沿って列状に間伐を行い、高性能林業機械により低コストで効率的な方法。効率優先の間伐方法。

瑞穂木材株式会社の見学と宮崎社長による講話

昭和23年創業の瑞穂木材株式会社を見学しながら、宮崎社長のお話をお聞きました。瑞穂木材は信州木材認証製品センターの認証工場で杉、唐松、桧、赤松の長野を代表する4種類の木材を取り扱っています。丸太から木材になるまでの工程、皮むき→製材→乾燥→検査を見て回りました。

長野県林務部信州の木振興課産材利用推進室 千代氏の講話

- 長野県の現状と行政の取り組みとして長野県森林づくり指針の説明をしていただきました。
- 長野県は県土の約8割が森林に覆われ、その6割を占める民有林の4割が個人所有となっている。
- また、民有林の約6割が針葉樹が占め、人工林率は約5割で、このうち約5割が唐松である。
- 間伐が必要な森林が全体の約9割を占め、今後10から20年で整備が必要とされる。
- 森林資源は増加しており、今は育てる時代から利用する時代になっている。

長野県は森林面積では北海道、岩手県に続いて第3位となっているが、素材生産量は42位と1位の宮崎県の40m³/1haに比べ、長野県は0.7m³/haとかなりひらきがある。これには驚いた!

長野県森林づくり指針として、概ね100年先の森林のあるべき姿を示し、今後10年間に行う施策の明確化として、木材の生産から利用までの過程における、ボトルネックの解消により品質、価格などの面で競争力のある林業・木材産業を実現、生産から利用までの関係者が一体となった体制づくりに取り組んでいる。H32年の素材生産目標を75万m³/年、県産材製品出荷目標を23.7万m³/年と明確化している。

意見交換

- ・ 森林のことをもっと勉強したい
- ・ 県産材を使うにあたり、作業している方を見て良かった。
- ・ 森林と製材所の情報をもっと知りたい、わかりやすくしてほしい。
- ・ システム化と規格化が林業の発展とブランド化には必要。など

素材生産、製材、行政と木材の流れを見学を中心に勉強することができ、「木」についてより知ることができたと思います。そして、近くの山の大切さをより理解できたと思います。今後はそれぞれの立場で地域材利用の促進につなげて頂きたいと強く願います。



森林についての説明



列状間伐の状況



プロセッサ



トビ



検査



製材



北信州森林組合での講座

ものづくりの楽しさを伝える雑学講座

信州の建築家 宮本忠長氏 —修景の手法—

宮本忠長建築設計事務所 西澤 広智氏



上田情報ビジネス専門学校 建築学科 インテリア住環境コース

毎年恒例となっている、JIA長野県クラブで協力している上田情報ビジネス専門学校の出前講座が9月5日(木)に行われました。

今回の講師は宮本忠長建築設計事務所・西澤広智氏(JIA長野県クラブ副代表)

『信州の建築家 宮本忠長 —修景の手法—』と題し

- ① 建築家 宮本忠長氏の紹介
- ② 長野市立博物館
- ③ 小布施のまちづくり
- ④ 修景の手法

をインテリア住環境コースの学生に講義しました。

講座を受講した、これから建築を目指していこうとするフレッシュな学生さんから届いた感想や意見をご紹介します。

インテリア住環境コース 2年 渡邊 良平

私は、近代建築が好きで屋根のお話を聞いた際に考えさせられました。屋根がなく形がそのまま出ている陸屋根になっていたり、かっこよくて好きですが、壁のメンテナンスの事なども考え、庇を出すなど見た目以外の事を計画することも必要で、屋根の大切さを改めて実感しました。

壁なども、遠くから見たり、近くから見たりと人間の感覚を大切に設計は今まで考えたことがなく、そういった工夫で人を楽しませるというのも素敵だなと思いました。

建物を建てたら、それで終わりではなくその後も守っていくという考えを聞いて自分の子供のように大切に、成長を見守り、変化を楽しむということなんではないかと思いました。

外と中の連結という場面では、写真を見せていただき、自然を取り込まずに外を表現するというのが驚きでした。

そして、小布施の町に行った際には様々な建物、庭、道、食べ物、人との出会いがたくさんあり歩いてとても楽しかったです。地図で見ると距離はあるのにその遠さを感じさせず広がる町がとても素晴らしかったです。そして自然とどこかへ誘導されるような気持ちになりました。小道では見つけて、歩いた時、感じたことのない雰囲気、さらに踏み心地もコンクリートとは違い感動しました。路地空間というのは不思議で魅力的な空間でこれからなくてはいけない大切な空間だと感じました。

建築をする中で重要だと考えたのは、その時点だけの建築ではなく、その先の事も考える事だと思います。変化するなかでも、環境に適合し、市民の方にも親しまれるそんな建物が出来たら設計者自身、建物、町、市民も幸せだと思います。そして町がリビングのように過ごしやすい空間になってほしいです。

インテリア住環境コース 1年 花岡 舜太

私は今日の講演をお聞きして、たくさん感じる事ができました。正直、お話を聞くまでは宮本さんについてあまり深く知りませんでした。しかし今日の講演で宮本さんの建築や町づくりのすごさを感じたのと同時に、周りの景観やそこに住む人のことを考えて設計する宮本さんの設計がとても好きになりました。私が最も心に残った言葉は「建築は脇役で間が主役である」という言葉です。私も今住宅の設計をしているのですが、その建物の外観や内観を考えるのに精一杯で周りのことにまで気を遣うことができません。その建物がどんなに綺麗であっても、その周りの環境と全く合致していないと残念な設計になってしまいますよね。宮本さんの間を大事にするという考えをとても尊敬しました。

小布施の町の写真を見て、とにかく実際に行って見てみたいと思いました。緑がとても綺麗で道路もとても広く、歩きやすい場所になっていると思いました。私は特に栗の小径の雰囲気がとても好きでした。見ているだけで心が落ち着いて幸せな気持ちになりました。いつか小布施町に行ってゆっくりと栗の小径を歩いてみたいです。

今日の講演でたくさんの大切なことを教えていただきました。「美・用・強」、「どこ誰も犠牲にならない」、「ひさは第三の外壁これら大事な言葉も大切にしながらこれからの設計にあたっていきたくと思います。今回は大変貴重なお話ありがとうございました。

インテリア住環境コース 2年 徳永 勇輝

宮本忠長さんの設計事務所には昨年の夏にオープンデスクでお世話になったり、長野県にある宮本さんの作品をいくつか見学する機会がありましたが、今回の西沢さんのお話の中で宮本さんの建築に対する考えや思いを感じることができました。市立博物館も見学した作品の一つであります長野県の風土に合っている建物であるとともに、回廊には細部におたるまでデザインのこだわりが表されてお個人的にとっても好きな空間です。一見すると派手な建物ではないですが、まさに長野県のための建物だと言えそうです。

小布施の街並みも今年の春に訪れ、見学することができました。目立った施設があるわけでもないのに、その時に感じた心地よさの正体はずっと気になっていたところ。それは今日の講演会のお話の中にあつた、優れた「間」のとり方のためだだと思います。お話を聞く限り小布施の住人の方は住人同士の結びつきが強い、という印象を受けましたが、建築士としての「間」が人と人との「間」、つまり関係性を良い方向に導いているのではないかと考えました。現在、卒業研究で集合住宅における人と人との関係性を重点的に考えていますが、今回講演会でまた違った面から考えるよい機会となりました。

インテリア住環境コース 1年 小平 雪乃

以前、先生から小布施町のお話を聞いて、行ってみたいと思っていました。ですが、詳しいことはよく知らなかったため、今回の講座で、いろんなことを知ることが出来ました。

印象に残ったことは、小布施町が木と一体になっていたこと。木に包まれているように見える場所もありました。建物と木が調和していて、歩くのが楽しそうでした。栗の小径の、クリの木のブロックを敷き詰めているのが素敵だと思いました。踏み心地も気になります。それと、北斎館の外壁の文字が、普通の字よりも味があつていいなと思いました。

今、製図の授業で、初めて自分で設計しています。わからないことばかりでなかなか進んでいませんが、西澤さんの、建築は脇役、間の空間が主役だということ、ここになにがあればいいかを考える、ということを知り、これからの建築の学びに活かしていきたいと思いました。

講座を聴いて、まだまだ知らないことばかりの自分がありました。もっと知識を増やしていきたいです。

これからの季節は、とてもいい時期だと聞いたので、行ってみたいと思います。ありがとうございました。

インテリア住環境コース 1年 丸山 沙紀

今日は私たちのために講座を開いてくださりありがとうございました。

今日の講座の内容で一番興味がわいた内容は、やはり小布施町についてです。以前、先生から小布施はいいところだとお話を聞いたことがあり、行ってみたいなあとは思っていたのですが、知っていることが栗がおいしいということだけで、今回、小布施に行きたくなるポイントをたくさん教えていただきました。ますます行きたくなりました。一番びっくりしたことは、人の家の庭に入っていくことができるということです。ソトはみんなのものという考え方が、公園や公共施設と考えたら当たり前ののですが、自分の家の庭や駐車場なども「ソトはみんなのもの」という考え方は新しく感じ、小布施町の方の心の広さや優しさでさえ感じることができました。人と人とがつながっているような感覚です。こうして街づくりをしていったら、どの街も素敵になると思います。

また、建築には「間」が大切だということもとても勉強になりました。今考えている設計で「間」について考えたことがなく、建築物のことばかりでした。これからは、そこに住む人や、その建築物を見る人達のことまで考えて設計して、誰にとっても気持ちがいい建築物をつくっていきたくと思います。

今日はありがとうございました。

賛助会だより

塗装工事・左官工事・アスベスト等処理・仕上工事全般

株式会社コーティングコーポレーション 佐藤 隆志

塗装・左官・防水等許可業種の工事に携わっています。現在は、下記エコに関する商材の普及に努めています。

- ① 外付ブラインド
日照時間の長い長野県内において、内装ブラインドや複層ガラスでは解決できない日射による室温上昇や冬場の熱損失等を解決する為の独自の制御システム。
- ② 遮熱塗料
屋根、壁からの熱の侵入、損失を阻止し、夏の冷房の節電・冬の暖房の熱を外部へ損失させない効果。
- ③ 光触媒

④ ハイドロテクトは光や水を利用し、外装のセルフクリーニング効果の他に、周辺の空気の浄化効果という環境配慮型のエコ商品。

- ④ 珪藻土
吸・放湿機能による高い調湿性能は結露に起因するカビ、ダニの発生を抑制し室内の臭いや煙を効果的に吸着します。
これらの自然・環境・健康を考慮した建築資材を取り入れ、メーカー直接仕入で施主に満足頂く仕上げを責任施工体制で確立しています。

〒381-2222 長野市金井田66 TEL:026-261-1717 FAX:026-261-1718

安心して暮らせる生活空間の創造

株式会社 シンダ設備 遠山 善秀

当社は、お客様のニーズにお応えし、和と感謝、反省と責任感を忘れることなく、常に努力、実行することにより、社会に奉仕し、地域の発展に寄与し、あくまでも共存共栄を守り、顧客、会社、社員ともに末長く繁栄することを基本方針としています。

事業の内容は、建物等に於ける冷暖房・空調設備、給排水衛生設備等々の設計・施工・メンテナンスで、お客様のご要望にお応えし

ています。
又、平成14年度から井戸ボーリング工事も始めました。災害時の緊急用水、生活・農業・工業用水として多くの皆様に活用して頂いています。

総合設備工事会社として、社会に信頼され続ける企業であり続けたいと考えています。

〒395-0071 長野県飯田市今宮町2丁目34番地 TEL:0265-23-5752 FAX:0265-52-5752

防水工事の技術者集団

坂田工業株式会社 坂田 守夫

当社は昭和5年創業と80年を超える実績があります。

最初は屋根工事を主体に業務を行っていましたが、昭和20年に株式会社組織にしてからは天然アスファルトを釜にいれ薪をたいて溶解して施工しておりました。

当時は当然のように官公庁主体の工事が主でした。県内で一番古い防水工事業者ですが、挑戦し続ける老舗でありたいという気持ちから他に負けない技術力をモットーに技能者育成に力をいれ、営業には各防水材の長所、短所の技術的な事を全員がマスタ

一するよう徹底させ、今ではあらゆる防水工事を施工しており、技術力、施工能力は高く評価され、大手ゼネコンをはじめ、設計事務所、施主から絶大な信頼と専門工事業者としての高い評価を得ています。

施工にあたっては「施主のため、設計事務所のため、ゼネコンのため」をモットーに技術の粋を集めて現場を取り組んでおります。

防水工事業を通じて社会に貢献するという信頼を卓越した技術力を持って、建設業発展のために今後共尽くしていく所存です。

長野市稲里町中央2丁目5番1号 TEL:026-286-3751

NEWS 祝・受賞

当クラブ賛助会会長の坂田守夫(さかた・もりお)氏が、このほど国土交通大臣表彰(平成25年度建設事業関係功労者等)を受賞されました。常任理事を務める全国防水工事業協会(全防協)の活動を通じて、業界全体の発展に貢献。その功績が認められての表彰です。受賞おめでとうございます!!

国土交通大臣表彰を受賞

坂田 守夫 さん

昭和19年生まれ
坂田工業株式会社 代表取締役会長
全国防水工事業協会常任理事・関東
甲信支部長
当クラブ賛助会会長



開催したイベント

- 7月27日(土)・・・第1回幹事会・夏のセミナー
- 8月24日(土)～25日(日)・・・支部保存問題委員会 理論合宿
- 9月5日(木)～7日(土)・・・JIA建築家大会2013札幌
- 9月13日(金)・・・第5回地域材フィールドワークin中信

今後の行事予定

- 10月26日(土)・・・柳澤孝彦氏講演会
- 11月15日(金)・・・第6回地域材フィールドワーク
(地域材でつくる建築の視察勉強会)
- 11月23日(土)・・・まち並みウォッチング
- 12月7日(土)・・・第2回幹事会・冬のセミナー

編集 後記

JIA長野県クラブ会報は本号で99号を数えることとなりました。これまでは「会報」として県クラブ内部の活動報告的な記事が中心でしたが、広報委員会では今後「建築家通信」として一般の方々へ向けた情報発信スタイルの発行物へ「進化」したいと考えております。会員・協力会員の方々、また会員以外の皆様からもご意見、ご感想などお待ちしております。……………下崎久

皆様からの投稿をお待ちしております。誌面へのご意見もお寄せ下さい。

編集人/下崎久 発行所/JIA長野県クラブ 長野市南長野妻科426-1 長野県建築士会館内 TEL:026-232-3897 FAX:026-232-5303
 発行人/川上恵一 URL <http://www4.ocn.ne.jp/~jia-naga/> E-mail jia-naga@jeans.ocn.ne.jp